



# 地域医療連携 だより

第 9 号

平成 22 年 7 月発行

富山通信病院

地域連携・医療福祉相談室

## あいさつ

平成 20 年 7 月より地域連携室が開設されて 2 年が経ちました。

本年 7 月からは地域連携・医療福祉相談室と名称をかえ、室長（病院長）・副室長・看護師 2 名・社会福祉士の体制で業務を行います。

これまで以上に活動を強化し、地域医療ニーズに対応すべく努力致します。

今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室 副室長 大上 英夫

## 開放病床症例検討会

### 第110回 開放病床症例検討会の報告(H22.4.20)

今回は慢性腎不全、パーキンソン症候群の経過中に肺炎、急性膵炎、DIC を合併し死亡した症例について検討しました。

症例は 80 歳代、男性で、約 40 年間の高血圧治療歴があり、10 年前から多発性脳梗塞によるパーキンソン症候群が出現し、慢性腎不全（腎硬化症、慢性間質性腎炎、腎尿細管性アシドーシス）でステロイド治療中でした。今回、体動減少と尿量減少のため当科に入院しました。検査結果より、肺炎が今回の症状の原因と考えられ、ペニシリン系抗生物質の点滴静注を行いました。第 3 病日に ARDS となり、気管内挿管し人工呼吸を行いました。抗生物質をカルバペネム系とテトラサイクリン系に変更し、免疫グロブリン製剤投与、ステロイドパルス療法などを行いました。その後、肺炎陰影は徐々に軽減し、呼吸状態も改善したため第 8 病日に人工呼吸器を離脱しました。第 10 病日から水様便が頻回に出現し偽膜性大腸炎が疑われました。尿量減少と腎機能悪化（特に BUN 高値）が出現し、急性膵炎と DIC を併発し第 17 病日に亡くなりました。

症例提示後、以下のことについて検討しました。本症例の肺炎の原因は、慢性腎不全で免疫力が低下していたためサイトメガロウイルス肺炎、カリニ肺炎、間質性肺炎の可能性を当初念頭に置いていましたが、最後まで不明でした。急性膵炎の発見が遅れた原因は、腎機能低下時には血清アミラーゼが高値になることがあることと、本例は腹痛を訴えなかったことが考えられました。経過中に BUN 高値になった原因として、急性膵炎のためサードスペースに水がたまり脱水になっていたことや、消化管出血の可能性が考えられました。

（内科 長澤 秀彦）

## 第111回 開放病床症例検討会の報告(H22.5.18)

今回は大腿部痛精査中に診断された閉鎖孔ヘルニアの1例について検討しました。

症例は80歳代、女性。2004年より高血圧症等にて当院内科通院。2010年1月朝、排便後右ソケイ部痛が出現し、その後右大腿部内側の痛みを認めたため整形外科に紹介。骨盤CT上、右閉鎖孔ヘルニア嵌頓が疑われ、嘔気も出現し外科紹介となりました。

CT上、嵌頓した小腸の血流は保たれていると思われましたが、腸閉塞症状もあり、同日緊急手術を行いました。腹腔内を検索すると、嵌頓腸管は自然に解除しており、嵌頓部の漿膜に発赤を認めたのみでした。両側閉鎖孔の縫縮のみ施行しました。術後は経過良く、21病日に退院しました。

当初、整形外科的疾患を念頭に置いていましたが、CT検査にて診断された症例です。閉鎖孔ヘルニアの特徴を挙げます。1) やせた高齢女性に多い、2) 長い経過：多くは4～5日の経過をとる麻痺性イレウスとして見出される、3) 小腸閉塞症状：嘔吐と吐気、腹痛を伴う、4) 放射痛：大腿内側に沿い膝部へ放散する痛み(ヘルニア内容による閉鎖神経の圧迫による; Romberg-Howship 症候) がみられる。この症状があったかどうかを問診することが診断の決め手となる、5) 体位：患者は股関節の屈曲内転位をとっている、6) 腫瘍：ときに大腿内側部で長内転筋の最上部と大腿動脈の間で、深部に圧痛ある腫瘍を触れる。

やせた高齢者女性で、大腿部痛に腸閉塞症状を伴う場合は本疾患も疑い、CT検査等で早期に診断することが重要であると考えられました。



(外科 大上 英夫)

次回の開放病床症例検討会は  
7月20日(火)、9月21日(火)です。

## 内服薬与薬管理表作成の試み

富山逋信病院 薬剂部\* 看護部\*\*

○高松智広\* 堂川嘉久\* 関堂好子\*\* 藤井朱実\*\*

### 【目的】

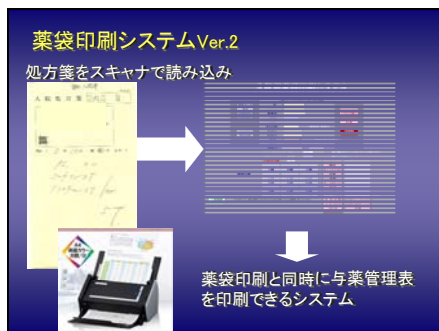
当院の入院調剂は一包装調剂で行っている。今回、看護部より内服薬の与薬管理を効率化できないか依頼があり薬剂部として与薬管理表を作成、発行し、その有益性を検討した。

### 【方法】

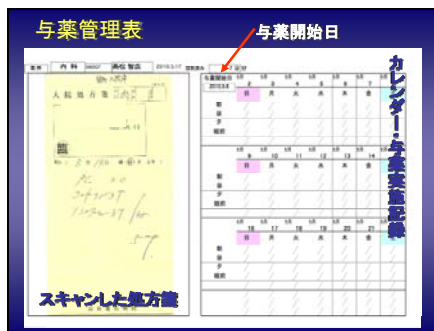
内服薬与薬管理表は Filemakerpro を用い、従来から行っている薬袋印刷と同時に行うシステムを構築した。(図1)記載内容はスキャンした処方箋、投薬開始日より自動的に計算させたカレンダー、看護師が与薬をする際に実施記録を記入できるようにした。(図2)管理表の有用性を検討するため作成前3年間および作成後2年間のヒヤリ・ハット報告件数を調査した。

### 【結果および考察】

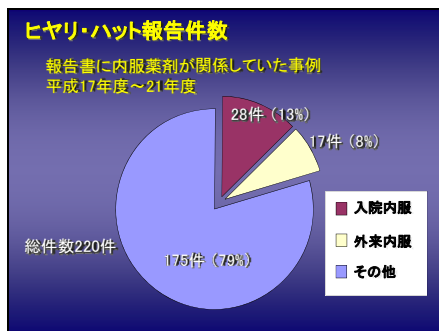
内服薬与薬管理表作成における薬剂部の負担は薬袋と同時に印刷されるためほとんどなかった。当院の医療事故防止委員会に提出されたヒヤリ・ハット報告のうち内服薬剂あるいは外用剂が記載されているものは17年度から21年度の5年間で全体の21%占め入院だけでも13%であった。(図3)。そのうち病棟における報告数は管理表作成前後2年間を比較すると17%(14/83)から9.6%(10/104)と減少していた。内服薬与薬管理表作成は医療事故防止に貢献していると考えられる。



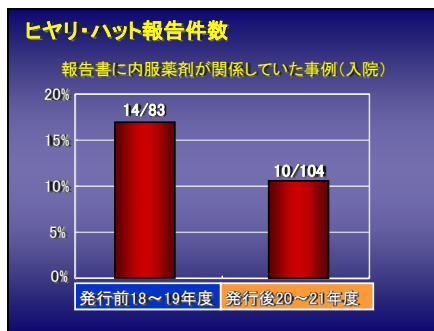
(図1)



(図2)



(図3)



(図4)

(薬剂部 高松 智広)

## フットケア指導について

当院では、毎月2回月曜日に糖尿病教室を開催していますが、看護師は第4週目にフットケアについての講義を担当しています。今までは、教本に沿って講義を行っていましたが、それではフットケアについての必要性の理解・セルフケアの促進は難しいと考え、パンフレットを新たに作成し、集団講義に加え個別指導を導入しました。

パンフレットの内容としては、フットケアの必要性・足の手入れ方法について簡単にイラストを交え、わかりやすくしました。また、個別指導では、足チェック表という患者様にわかるような簡単な観察項目とコメントが書けるアセスメントシートを作成し、それを用いて足の観察を行っています。足チェック表は指導した看護師が記載し、直ちに返却、再度見直せるようにしました。指導時間は合わせて約30分です。

その結果、患者様から疾患や血糖コントロールなどの質問も、積極的に聞かれるようになりました。この指導方法はフットケアに対する知識の習得・セルフケアの促進、さらには糖尿病の自己管理にも役立つと示唆しています。この取り組みに対する研究の一部は、平成22年度逓信医学会年次大会にて発表しました。

また今年の6月より指導だけではなく、足の手入れ方法などの実践的なケアを始めました。ケアは患者様の状態に応じ事前スクリーニングを行っていますが、基本的内容は足浴、爪切り、保湿ケアなどです。まだ導入したばかりで手探りの状態ですが、糖尿病プロジェクトチームに皮膚・排泄ケア認定看護師が加わり、看護師7名で患者様のために奮闘しています。これからも医師をはじめチーム一丸となって、患者様の糖尿病に関する治療・ケアに取り組んでいきたいと思っております。

(看護師 前田 加代子)

## 外来診療担当表

※は手術日

診療科		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
内科	午前	1診	舟木	島倉	舟木	老子	舟木
		2診	島倉	高田	長澤	高田	島倉
		3診	長澤	長澤	長澤/舟木	島倉/長澤	舟木/島倉
	午後	1診	老子	長澤	長澤	舟木	老子
		2診	高田		高田		
外科	午前	大上/長	大上/長	大上/長	大上/長	大上/長	
	午後	大上/長	大上/長	※大上/長	大上/長	大上/長	
整形外科	午前	中山	中山	中山	中山	中山	
	午後	中山	※中山	中山	中山	中山	
産婦人科	午前	井川	井川	井川	井川	井川	
	午後	※井川	井川	井川	井川	井川	
眼科	午前	坂井	坂井	坂井	坂井	坂井	
	午後	坂井	坂井	坂井	※坂井	坂井	

### 編集後記

#### 【富山の魅力その1】

一昨年、富山に越して来て、海あり山あり、魚のおいしいこの地に大変魅了されております。富山の魅力や見どころは語り出したらきりがありませんがやはり一番は、雄大な立山連峰の景色です。初めて市街地にくっきりと浮かび上がるその姿を見た時には、まさに息をのむほど感動しました。夢か幻かと思っただけです。あの姿は富山県民の宝ですね。立山が撮りたくて機械音痴の私がデジカメを買いました。立山連峰がくっきりと全貌を現す日は、年にかぞえるほどしかなく、夕日が白い峰をピンクに染める一瞬を見られるのも数少ないことです。写真を撮れるチャンスはさらに少ないですが、逓信病院からは居ながらにして立山連峰を眺めることができます。冬の楽しみの一つでした。

(地域連携・医療福祉相談室 佐中 泉)

**富山逓信病院地域連携・医療福祉相談室**

電話番号：076-421-7819

F A X：076-421-7829